

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300102		
法人名	社会福祉法人 白恵会		
事業所名	グループホーム恵の家(1・2階)		
所在地	大阪府貝塚市窪田166-6(1階)		
自己評価作成日	平成27年4月22日	評価結果市町村受理日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の状態が変わり車イスなどになっても外出の機会を作り地域の行事に参加できるように支援し、ホームでは明るい雰囲気の中、大家族で楽しく生活が送れるように寄り添う介護を行っている。また、重症になっても安心して生活を送れるように医療連携体制を確保している。毎月、レクリエーションがあり外出したり、ホーム内で行ったり季節に応じたレクリエーションを楽しんでいただいている。日中の余暇時間には入居者様の希望に沿えるようカラオケや散歩、買物に出かけたり、喫茶店に出かけたりしていただく。家族様の行事への参加、ご協力もあり交流を行っている。スタッフの資格取得にも努力し、より良い日常生活を送っていただけるためのケアに活かせるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは南海本線二色浜徒歩8分の住宅街に木造2階建て2ユニットの事業所である。事業主体(株)恵の家から平成24年6月社会福祉法人白恵会と名称を改めて通算9年目となる。職員は利用者がありのままの姿でその人らしさを失わず、介護度が進んでも利用者の希望に沿うよう寄り添い、地域のふれあい喫茶や季節行事へ参加して交流を深めたいと取り組んでいる。ホームへは誰でも気軽に訪問や介護相談等出来るように日中は玄関を開錠している。職員間には人間関係も良く日々のケア時の態度、言葉遣い等に対して、不適切な場合にはお互いに注意し合い、またその人の素晴らしい所を認め合う職場環境にある。法人理事長・管理者は職員のスキルアップに力を入れて、勉強会や研修会等に取り組む資格や資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創設時の理念を基本理念と掲げ、新たに介護理念として入居者の状況に合わせたものを作り直し実行している。	ホームの理念を新たに独自で10ヶ条作成して、スタッフルームに掲げ、職員会議や研修会で唱和して、理念の実践に向けて、職員が同じ目標を持ち、日々の介護の現場やサービスの意義を職員で確認して、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方の訪問を受け入れ、又、防災訓練、行事などの参加も呼びかけている。年2回の町内清掃に参加。	町内会長・民生委員・家族からの情報得て、地域の行事へ参加して交流を深めている。めぐみ新聞を町内に届けたり、介護相談・中学生の職場体験・介護実習生・地域ボランティア(よさこい祭り・手品・コンサー等ト)も受け入れている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来た地域の方にどのように手続きしたらよいかなど、相談、支援を行っている。民生委員を通じてホームへの理解を促している。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に(2ヶ月に一度)開催し、町会長、民生委員、地域包括、市職員、家族、入居者にて話し合い、意見を聞き運営に反映できるように努力している。	町内会長・民生委員・地域包括支援センター・高齢介護課職員・利用者・家族・管理者で構成され・ホームの近況報告、各種連絡事項の報告をして、参加者から意見、地域の情報提供もあり、双方向的な会議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への報告、相談等を定期的に行っている。運営推進会議やGH部会時なども市職員の参加もある為、協力関係の構築に努力している。	定期的に市高齢介護課へ訪問してホームの実情の報告、相談等をしている。グループホーム部会へ市職員も参加して市の情報や他の事業所の情報を得て参考にしている。市主催の研修会に職員は積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関などの施錠を行わず、所内にて身体拘束についての研修を行っている。	管理者と職員は身体拘束をすることの弊害を理解している。マニュアルを作成し、定期的にホーム内で研修会を実施している。日中は玄関を開錠して、見守りや利用者の外出希望時には意向に沿えるよう即対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について注意を皆で払い、研修、勉強会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の研修、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時には書類にて説明を行い、解らないところは質問してもらうなどし、納得していただくまで話をする。退居時にも相談に乗り支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族に意見・要望があれば聞き運営に反映できるように努力している。又、投書箱を設け意見・要望をお願いしている。	日頃から利用者、家族とは信頼関係を築き、なんでも言って貰える雰囲気を作っている。苦情対応ノートを作成して対応している。苦情や意見や要望は運営に反映している。行事日程を早く知らせとほしいとの家族からの意見に対応した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行い、意見を言える機会をつくっている。年に数回職員一対一の面談を行い意見を聞く機会も設けている。	管理者は常に職員と信頼関係を築くことを心掛け、個別の相談に応じるなど風通しの良い職場環境作りに取り組んでいる。職員は自己評価表を作成して、法人理事長との年2回個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に話し合い意見を聞いている。自己評価を行ってもらい、今後の目標を立てて仕事に取り組むようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外、所内研修に参加してもらいスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会への参加により、他施設との情報交換や勉強会など行いネットワークを築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望を聞き寄り添う介護、支援を行 いなじみの関係をつくる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	家族の話も傾聴し、相談に乗り信頼関係 をつくれるように努力してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを見極め支援計画に立て、 サービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いて いる	家族のように暖かく、話のしやすい、なじ みの関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	家族と情報の共有を行い、相談し支援を 行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	会合などの参加支援、友人、近隣の方の 訪問の受け入れを行っている。	近所付き合いの間柄で近隣住民の訪問や知 人・友人の訪問もある。友人・知人へ手紙や 賀状の支援もしている。馴染みの場所へは、 行きつけの店、美容院、家族の協力を得て墓 参りに出かけて、誕生日には行きたい場所を 聞いて支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るような支援に努めている	関係を把握し、会議にて話し合いより良い かわりが出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談の電話や来設を待っていることを伝え関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に意見を聞き支援をしている。誕生日月に行きたいところを聞き、買物、外食など行っている。	日々の関わりの中で個別に対応(入浴・散歩・排泄時等)利用者の暮らし方の意向や思いを汲み取り聞き出すよう努めている。把握が困難な場合には利用者の表情や態度から察したり、連絡帳に細かく記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問し、どのような生活をしていたかなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆で会議にて話し合い、支援計画に出来ることなど組み込み残存能力を使えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、スタッフと話し合い現状に即した支援が行えるように支援計画を立てている。	サービス計画書を基に個別支援計画書を担当職員が作成している。日々の支援の中から色々な意見を出し合いカンファランスを開いて日々の個別ケアを実践している。サービス計画書の日付けが正しくないものや、期限切れのものがみられた。個人ファイルはいろいろな書類が混在している。	サービス計画書は期限が来る前に更新し、常に最新のものが見られるようにし、個人ファイルは必要なもののみを残して整理するなど見やすくする工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度変わったところなど連絡帳にて情報共有し現状に即した介護を行えるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、入居者、家族、職員にて話し合い対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の趣味など今までしていたことを続けられるように支援している。(園芸が好きな方でよく行っていた花屋に行くなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿いかかりつけ医にて受診してもらっている。かかりつけ医との関係も受診時付き添ったり、手紙を書くなどし関係づくりをしている。	利用者、家族の希望や意向を尊重して、これまでのかかりつけ医が継続できるよう支援している。家族が通院受診が困難な利用者には職員が同行支援して、結果は家族へ報告している。内服変更時等は連絡帳に記入して職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に伝え、わからないことは聞き、適切な看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中の様子を見に行き状態を看護師等に聞き関係づくりに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の指針にて説明を行っている。様子が変わるたびに家族、職員と相談し情報を共有し支援を行っている。	契約時に終末期について「重度化の看取り対応指針」の説明して同意書を取り、捺印して貰っている。重度化時には再度医師、看護師を交えて家族と話し合いを行い、意向に沿うよう支援している。主治医との24時間連携体制オンコール連絡ルートを明確にし、体制を確立している。看取りは2例実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導のもと職員全員が行えるように努力している。勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震・津波避難訓練を年2回行っている。毎月防災マニュアルを読みあげたり、避難経路の確認、消火器の使い方、連絡網の確認等を行っている。近隣の方にも訓練の参加を依頼している。	年2回、併設の施設と合同で消防署の指導の下、訓練と自主訓練を実施している。併設施設との連携体制は出来ている。ホームはスプリンクラー・火災受信盤・火災通報装置・消火器など設置されている。備蓄品等整備されている。地域住民の協力体制の構築が今後望まれる。	日頃からあらゆる自然災害を想定し、利用者、職員が協力し合い、昼夜問わず多様な避難訓練の実施や地域住民との役割分担等具体的な協力体制が望まれる。反省時に見えてくる問題点も更に検討し職員のスキルアップに繋げる事を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声かけを心がけている。又、接遇の勉強会も行っている。	接遇マニュアルを作成して、定期的に研修会や勉強会を実施している。人生の先輩としての対応や利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけに気を付けている。職員間で不適切な対応の場合にはお互いに注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話せるまで待ち、自ら希望を表せるよう声かけしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし支援を行い、希望を聞くよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度時服を選んでもらったり、買物に出かけ自分の好きな物を購入してもらうように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合うように食事を提供し、食べたいものなど聞き一緒に出来る食事作りを行っている。	業者から食材を購入して、職員が交代で調理し、きざみ食、とろみ食等利用者の状況に合わせた食事を提供している。時には誕生日の利用者を祝ったり、外食したり、日曜日には利用者の好みを聞いて、たこ焼き・お鍋等している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を確保できるように支援し、状態に応じた介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところまで自らしてもらい不足分を介助するようにしている。必要な方は訪問歯科にてケアを行ってもらっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りパンツをはいてもらい、トイレにて排泄が行えるように支援している。寝たきりの方以外は日中はパンツ(紙パンツ)を使用しトイレにて排泄をしている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を心掛けてさり気なく誘導している。殆どが布パンツ・紙パンツで対応して自立している。夜間ポータブルトイレ使用の方もいるが日中はリハビリパンツで対応して、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、その都度個々に応じた予防を行っている。又、それでも出ない方は医師の処方した薬を看護師に出してもらい服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日で行っているが希望に沿って時間、日にちを変更している。	入浴は週3回として、日時等は利用者の希望に沿えるよう柔軟に対応している。利用者の体調不良の場合は看護師の指示を仰ぎ、清拭や足浴等に変更して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動し夜間睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員で情報共有し、変化など気づけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や気分転換(散歩、外出、喫茶)、など出来るように支援し、誕生日月にはしたいこと、行きたいところなどへ行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれ外出出来るように支援している。レクリエーションなどで外食なども行っており、家族も参加して楽しんでもらえるように努めている。	天候の良い日には、ホーム周辺の散歩や買い物等に出かけて、車でドライブしながら喫茶店へ行ったりしている。また月1回は家族の協力を得ながら外出行事を企画し、初詣・花見・紅葉・外食等もしている。外気に触れ五感を刺激する機会が得られるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際支払いを本人にってもらったり、欲しいものがあれば買物に出かけたりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年それぞれ好きなように年賀状作り家族に送っている。電話の希望があれば出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはゆったり座れるソファを置き冬場はこたつにして皆で暖を取り話せる空間をつくっている。季節にあった飾り付けをし季節感を感じてもらえるようにしている。又、飾り付け等が生活の障害(転倒する原因)にならないように工夫して行っている。	リビング兼食堂は明るくて広く、清潔に保たれている。中央にはソファが配置されて、利用者がゆったりと寛げるよう工夫をしている。玄関は水槽に金魚を飼い、壁には利用者の作品、行事の写真、季節感が感じられる花や観葉植物が配置され、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所などお互いが嫌悪感を抱かないように工夫し座ってもらい、ゆっくり過ごしたり、楽しくお話しできるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からなじみの物を持ってきてもらい、自宅にて過ごしていたように生活してもらえるように努めている。	居室は全室畳を敷き、利用者の好みの生活スタイルで過ごしている。居室には筆筒・机・テレビ・仏壇・家族の写真等が持ち込まれて、利用者が居心地良く過ごせるような環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすいように掲げ、各居室にはそれぞれの表札をつけ(家族、本人承諾のもと)自らトイレへ、居室へなど行けるようにしている。		